

# ドイツとオーストリアにおけるクラブハウス

—精神障害者の自助・相互支援促進の取り組み—

小 田 美 季

**要 約** 精神障害者の包括的地域リハビリテーションで自助と相互支援の当事者型活動を特徴とした「クラブハウスモデル」がある。クラブハウスはその拠点である。1948年に最初のクラブハウスがアメリカに創設され、1970年代後半からアメリカのみならず国外にも広がり始め、現在は27カ国300以上にものぼる。

本稿では、アメリカで始まり、カナダ、オーストラリア・ニュージーランド、ヨーロッパ、アフリカ、アジアに広がるクラブハウスの活動が、ヨーロッパ、特にドイツ語圏のドイツとオーストリアでどのように展開されているかを現地調査の結果や文献から明らかにすることを目的とした。さらに、両国における状況を制度的及び実践的観点から比較検討したうえで、日本のクラブハウスの活動への示唆を導き出すことも試みた。その結果、クラブハウスという名称での制度的位置づけの有無による状況、クラブハウス間の連携の重要性が浮き彫りになった。

**キーワード** 精神障害者地域リハビリテーション、クラブハウス、自助、相互支援

## 1. はじめに

クラブハウスモデルは、精神障害者の包括的地域リハビリテーションで、自助と相互支援の当事者型活動に特徴がある。その実践拠点がクラブハウスである。1948年に最初のクラブハウスがアメリカに創設され、1970年代後半からアメリカのみならず国外にも広がり始めた。2005年クラブハウス一覧表によると、クラブハウスの数は27カ国300以上にものぼる<sup>1)</sup>。この国際的に広がったクラブハウスへの支援やクラブハウス間のネットワークの構築、クラブハウスの普及推進に対する役割を担っているのが、

ニューヨークにある国際クラブハウス開発センター (International Center for Clubhouse Development; 略称「ICCD」) である<sup>2)</sup>。

各クラブハウスの活動指針として、「国際クラブハウスプログラム基準」がある。これは、クラブハウスとは何か、その活動プログラムに含まなければならないのは何かということを示したものである。各々の国、州、あるいは各々の設置運営母体によってクラブハウスの置かれた状況は違う。しかし、あるクラブハウスが当初プログラム基準を満たすことができなかつたとしても、将来的には基準を満たしていくことが求められている。このプログラム基準に基づ

き、多くのクラブハウスでは、以下の活動が行われている<sup>3)</sup>：

- ① 役割分担作業（デイプログラム）：メンバー・スタッフともに、日中のクラブハウス運営に関する仕事の役割分担作業を行う。クラブハウス運営と相互支援の活動であり、収入は社会で得ることが重要との考えから、作業は無報酬である。
- ② 夜間・週末プログラム：メンバーの孤立防止と余暇の充実のために、メンバー・スタッフともに社交やレクリエーションに関するプログラムの企画・運営を行う。
- ③ 住居プログラム：メンバーが手頃な家賃で入居できるために、クラブハウスが賃貸もしくは購入した住居を準備する。
- ④ 過渡的雇用プログラム：一般雇用への橋渡しとしてクラブハウスが契約した場で、6～9ヶ月の就労期間、週15～20時間のパートタイムの機会が就労を希望するメンバーに提供される。メンバーには、最低賃金以上の賃金がパートタイム先から直接支払われる。
- ⑤ フォーラム：メンバーとスタッフがクラブハウスの管理運営方針・今後の展望について公開討論する場を設け、そこには地域住民も招待する。

上記のうち、特に役割分担作業（デイプログラム）と過渡的雇用プログラムは大きな柱である。メンバーは、クラブハウスへの加入当初、役割分担作業を通して、日常生活や仕事の基礎を学ぶと同時に、他者との協働の喜びや自分に対する自信の回復といった他者や自分との付き合い方を学ぶ。その段階を経て一般就労を望む者には、過渡的雇用プログラムがデイプログラムの出口として重要な役割を果たす。

クラブハウスは、日本でも1992年から存在

する。アメリカでクラブハウスが広がり始めたのは1970年代末以降であった。日本では1980年代半ばからクラブハウスモデルへの関心が起こり始めた。1990年代に3ヵ所、2003年に1ヵ所が設立された結果、2005年段階で国際クラブハウス開発センター（ICCD）に登録されているクラブハウスは4ヵ所にのぼる<sup>4)</sup>。アメリカで最初に設立されたクラブハウスであるニューヨーク・ファウンテンハウスを始めとした海外のクラブハウスを多くの日本人が訪問し、クラブハウスモデルに関心を示してきた。しかし、その関心度に比して、実践への広がりには少なかった。クラブハウスへの制度的裏づけがない財政的困難や企業の理解を得られない過渡的雇用先開拓の困難がクラブハウス設立運営の少なさへ影響を与えていた<sup>5)</sup>。

日本のサービス提供事業体は、北米のように民間助成や寄付を十分に得られる環境にはない。したがって、制度的枠組みに基づいたサービス提供でないと、日本のサービス提供事業体の存続は難しい。この点に関しては、社会保障の一環として障害者政策が明確なヨーロッパの状況を把握してみるのが日本の状況を考えるいく上で参考になる。クラブハウスに関して言えば、アメリカで始まったクラブハウスの活動がヨーロッパでどのような状況かを把握することによって、もう一度日本の状況を省みることも可能である。

ヨーロッパにおいて、日本とほぼ同じ数のクラブハウスを有する国としてドイツ語圏のドイツとオーストリアがある。さらに、両国では障害者施策に基づきサービス提供が行われている。そこで、ドイツ語圏でのクラブハウスの活動状況を現地調査や文献から明らかにすることを本稿の目的とした。さらに、両国における制

度上及び実践上の状況について比較検討したうえで、日本のクラブハウスの活動への示唆を導き出すことも試みる。

## II. ドイツの現状

### 1. 調査の目的・対象・方法

#### (1) 目的

ドイツにおけるクラブハウスの現状と課題について把握することを調査の目的とする。

#### (2) 対象・方法

国際クラブハウス開発センター (ICCD) に登録されているドイツのクラブハウスは3カ所ある。すべてがドイツ南東部バイエルン州にある。これら3つのクラブハウスにおけるスタッフとメンバーへの聞き取り調査、デイプログラムや週末プログラム (日帰り旅行) への参加による参与観察、クラブハウス新聞等の資料分析を通して調査を行った。

訪問による聞き取り調査、プログラムへの参加を行った期間は2004年9月2日から7日である。なお、訪問前の段階で、各クラブハウスには以下の観点について関心があることを連絡しておいた：

- －各クラブハウスの成立状況
- －各クラブハウスの現状
- －法的根拠
- －クラブハウスの連携

筆者の連絡を受けて、3クラブハウスは相互連絡を行った。その結果、法的根拠とクラブハウスの連携については同一のため、今回の訪問におけるコーディネートの立場のクラブハウスが説明を行うこととなった。

### 2. 調査結果

3クラブハウスはドイツ南東部バイエルン州にある。ミュンヘンに2カ所、ヴァイルハイムに1カ所あるが、3カ所ともバイエルン州内の行政区としては、オーバーバイエルンに属する。以下においては、ミュンヘンとヴァイルハイムの都市別に大きく分けた上で、各クラブハウスの成立状況と現状に関する調査結果の整理を行う。なお、法的根拠とクラブハウスの連携については、ドイツとオーストリアのクラブハウスの考察の際に詳しく述べる。

#### (1) ミュンヘン

州都であるミュンヘンには、クラブハウスが2つある。2つとも同じ法人に所属する。社会精神医学センター「トイトブルガーシュトラッセの家」が親組織であり、このセンター自体は民間社会福祉団体<sup>6)</sup>のひとつ、パリティシエ福祉事業団 (Der Paritätische Wohlfahrtsverband) の傘下に入っている。

社会精神医学センター「トイトブルガーシュトラッセの家」は、精神科病院退院後、社会復帰のために長期に渡る支援が必要な精神障害者を対象とした中間施設である。入所型リハビリテーションの場を67名分、ナイトケアを20名分、デイケアを20名分提供している。サービス利用期間は3ヶ月～3年であるが、個人の状態によっては延長も可能である。入所型リハビリテーションについては、週当たり26時間の集団療法が行われており、そのうち約20時間が仕事へのオリエンテーションである<sup>7)</sup>。

この施設を退所後の社会精神医学的アフターケアの1つとして、日中活動の支援を提供するのがクラブハウスである。社会精神医学センターからさらに地域に近づく過程としてのクラブハウスの重要性に対して、法人本部は理解が

ある。以下、2つのクラブハウスについて述べていく。

### 1) 「シュバルベンネスト」

ミュンヘン市内の中心にあるミュンヘン中央駅から徒歩5分程度の場所にある。周囲には事務所や小さな商店が多く立ち並び、緑は少ない。このような地域にある建物の2階と3階にクラブハウス「シュバルベンネスト」はある。

#### ① 成立状況

社会精神医学センター「トイトブルガーシュトラッセの家」のオランダ人の精神科医が専門誌を通じてクラブハウスモデルの存在について知っていた。そこで、1984年、パリテティシェ福祉事業団のアメリカ研修旅行があった際に、「トイトブルガーシュトラッセの家」の専門家を含む1グループがニューヨークのファウンテンハウス（現在のクラブハウスモデル、クラブハウスの発祥の地）を訪問した。その際、参加者たちは皆、クラブハウスモデルの考えやファウンテンハウスでの実践に感動した。帰国後、「トイトブルガーシュトラッセの家」では、付施設としてのクラブハウスの設立の準備を始めた。

1986年10月、社会精神医学センター「トイトブルガーシュトラッセの家」に付設していた「喫茶室シュバルベンネスト」をクラブハウスモデルに基づく施設であるクラブハウス「シュバルベンネスト」へと編成しなおした。「喫茶室シュバルベンネスト」は、「トイトブルガーシュトラッセの家」のプログラムを終えた当事者にとっての日中活動の場であった。その利用者、専門職をクラブハウス「シュバルベンネスト」のメンバー、スタッフとし、活動が開始された。

開設当初の困難は、以前の喫茶室からの

利用者の中の年配者と専門職の社会教育士 (Sozialpädagoge)<sup>8)</sup> に生じた。両グループにとって以前の喫茶室のやり方から脱却することが難しかったのである。クラブハウスモデルにおいては、クラブハウスを維持運営していく活動すべてに、メンバーとスタッフが協働作業で取り組む。たとえば、昼食1つをとっても、献立選び、食材の購入、調理、配膳、片付けのすべての作業に、メンバーもスタッフも参加し、メンバー自身の自己選択・自己決定の場が設けられ、メンバー同士の相互支援も行われる。このようなクラブハウスモデルの実施に対して、以前の喫茶室から移行してきてメンバーになった年配者は、今まで自主的に動かなくても社会教育士からしてもらえていたこと（たとえば、コーヒーを飲むときには、自分の前に準備され、飲んだ後は自分の前から片付けられる）を、自分でしなければならなくなったことに対して受け入れがたい気持ちを持った。専門職は専門職で、利用者に専門職として援助をするという考え（何かをしてあげるという意味）でかつての仕事に取り組んできたのに、メンバーの自主性を引き出し、自己責任・自己決定の場、相互支援の場をマネジメントしていくことに慣れることができなかった。1987年4月に現在の施設長が着任し、1987年末には、クラブハウスモデルの実施に了解するかどうかの決定をメンバー自身に求め、了解しがたい者には、その者の希望に沿う他の施設を紹介した。その後は、クラブハウスモデルに基づいた活動が順調に行われるようになった。

1991年には、社会精神医学センター「トイトブルガーシュトラッセの家」の一角から現在の地に移転した。メンバー及び待機者数の増加に伴い、1995年には後述する「リッヒトブリッ

ク」が増設された。

## ② 現状

40人分の日中活動の場として認可されている。ここでいう一人分というのは、一人が1ヶ月に10回利用したということである。一人が1ヶ月に5回利用したというのは、0.5人分とみなされる。この計算の仕方は、行政当局の方法であり、ドイツの他のクラブハウスも同様である。行政当局に示すために、メンバーはクラブハウスに来ると、受付の表に名前を記入し、クラブハウスでは、一月当たりの利用者数を統計としてまとめる。メンバー登録している者は70～80人おり、平均年齢は49.6歳である。スタッフは3名、実習生1～2名がスタッフの補助を行う。

開設時間は月曜が9時から15時、火曜から金曜が9時から16時である。土曜は話し合いによって行事を行う場合がある。さらに、メンバー集会での要望により、開設時間の午後の延長を準備している。

クラブハウスを維持運営するためのデイプログラムの作業グループは、キッチングループ（昼食・間食の準備・配膳・片付け、飲食の会計）と事務グループ（コンピュータを使用した仕事、クラブハウス新聞の作成等）に分かれている。誰がどのグループに属するかは、メンバーになるかどうかをためすオリエンテーション期間（4週間）の後に決める。ただし、その日の気分での他のグループの活動に参加することもできる。毎週火曜日にメンバー集会をもち、クラブハウスの運営について話し合いを行う。夏には、10日間の夏季休暇旅行を一緒に行う。ただしこの間も、旅行に行くことができない者のために、クラブハウスをあけている。余暇の一環の講座については、英国人ボランティアによ

る英語講座が開設されている。

過渡的雇用の場はアメリカ系銀行に一人分ある。ここの開拓には、国際クラブハウス開発センター（ICCD）の担当者がドイツを訪れた際に尽力した。ドイツにおける過渡的雇用の難しさは、精神障害者への偏見もあるが、それだけではなく労働契約の問題にもある。個人と雇用主が労働契約を結ぶことが必要であり、クラブハウスと雇用主の労働契約はできない。また、過渡的雇用の場を確保していても、メンバーが過渡的雇用の期間を終えた6ヶ月後に、次にその機会を得たいメンバーがいるかどうかは不透明である。

地域とのかかわりについては、駅近辺で事務所が多いこと、治安の安定していない地域であることもあり、近隣との付き合いはなく、今後の発展も望めない。

## 2) 「リヒトブリック」

ミュンヘン市内の東部にある住宅街に位置する。周囲は木々も多く、静かな環境である。庭付きの一戸建てを使用している。

### ① 成立状況

社会精神医学センター「トイトブルガーシュトラッセの家」に併設する2つめのクラブハウスとして、「リヒトブリック」は1995年8月に開所した。そこには次のような経緯があった<sup>9)</sup>。

上述した「シュバルベンネスト」への受け入れ希望者が増加し、それに対応できない状況が起きてきた。そこで、当時の「シュバルベンネスト」のスタッフが、ミュンヘンにおける新しいクラブハウスの開設を考えた。財政的かつ組織的な問題への対処ができ、「シュバルベンネスト」からスタッフ1名、実習生1名、メンバー複数名が1995年8月に「リヒトブリック」へと移った。1996年7月の公的な開所式までに、

以前歯科医院であった建物を自分たちの活動に適するように改築する作業や家具の選定等もほとんどメンバーとスタッフで行った。

自分たちの活動に適する環境づくりは、その後も行われた。デイプログラムのキッチングループは、事務グループが数少ないコンピュータ利用しかできなかったことに比すと、当初から整った設備を使うことができた。しかし、さらによりよい食事作りを行うために、電子レンジもそろえていった。庭には、テーブル、イス、ベンチ、グリルを設置した。それに加えて、かつてこのクラブハウスの実習生であった現在の施設長が適切な機械や道具を備えた作業所を立ち上げた。その結果、住居の維持に必要な仕事はすべてメンバーとスタッフで行えるようになった。また、クラブハウスに合ったペットに関する長年の話し合いの末、2年前にリビングに水槽を置き、魚を飼うようになった。

クラブハウスの考え方に関するメンバーとスタッフの研修については、1999年11月にニューヨークのファウンテンハウスにて、メンバー・スタッフ各1名が3週間のトレーニングコースを修了した。なお、「シュバルベンネスト」から「リットブリック」へと移ったメンバーの中には、すでに1994年にこのトレーニングコースを終えた者もいる。

## ② 現状

1997年に施行された日中活動の場に関する財源に基づき、25名分の日中活動の場として認可されている。当初は、利用者20名分、職員（社会教育士）2名とされていた。しかし、希望者が多いため、後に利用者25名となった。それでも、待機者リストの登録に切れ目がない。現在のところ、スタッフは社会教育士2.8人、実習生1名、兵役代替者1名である。スタッフ

は、クラブハウス内のコーディネートだけではなく、個別相談にももの。登録しているメンバーは1997年段階で60人であったが、2004年段階では約115名にのぼる。

開設時間は月曜から金曜の9～16時であるが、希望に応じて週末に行事を組むこともある。メンバーはクラブハウスに来ると、まず受付で表に自分の名前を記入する。これはクラブハウスの統計のためであるが、行政の監督局に来所数の証拠として示すためでもある。また、昼食を希望する者はキッチングループの作業開始までに昼食希望リストに自分の名前を記入する。これは、その日の調理量の計算、昼食代をハウス内に設けたレジで支払う際のチェックリスト、監督局への証拠資料の役割を果たす。これら2つの表の活用に関しては上述した「シュバルベンネスト」も同様の方法を取っている。

デイプログラムの作業グループは、キッチングループと事務グループに分かれている。どのグループへ所属するかは「シュバルベンネスト」同様、オリエンテーション期間後に本人の希望に基づき決められる。キッチングループでは、献立決め・買い物・調理・配膳・片付け・飲食物のレジと計算を行う。事務グループでは、受付・事務処理・新聞作成等を行う。事務グループによるリットブリック新聞は1996年5月の刊行以来、2ヶ月ごとの発行を続けている。

クラブハウス内の研修コースに関しては、コンピュータ・語学・料理のコースを設けている。その際、講師のボランティア、メンバー、スタッフともに活動を行っている。また、余暇活動の一環としての行事も夏祭り、クリスマスパーティ、大晦日パーティ、カーニバル、イースター祭等を共に楽しんでいる。夏には、10日間の休暇旅行を共に過ごしている。

地域とのかかわりについては、クラブハウスが住宅街にあるので、近隣には行事の連絡をする。すると、近隣からの参加者があり、良い関係も保っている。また、地域の市民大学の受講生が施設訪問に来るといった新しい動きもある。

## (2) ヴァイルハイム

ミュンヘンとオーストリア隣接南側国境との間のほぼ中間地点にヴァイルハイムは位置する。ミュンヘンとバイエルン州アルプス地域との間にあるため、周囲は湖や森が多くある。人口は約2万1千人である(2002年現在)<sup>10)</sup>。

クラブハウス「オアセ」<sup>11)</sup>はドイツ連邦鉄道のヴァイルハイム駅から徒歩約10分の距離にある。交通の便が良いため、クラブハウスのメンバーは鉄道やバスを利用し、クラブハウスに通うことができる。また、市のほぼ中心に位置するため買い物等も便利である。

オアセは「ヘルツォクザイグミューレ」という法人に属する。この法人はプロテスタント系のディアコニア事業団の傘下にある。この法人自体は精神障害を持つ人々への支援だけではなく、高齢者・児童等への支援も行っている<sup>12)</sup>。クラブハウス「オアセ」は法人組織の中の社会精神医学サービス提供部門における1施設である。建物は庭付き一戸建ての住宅を利用している。

### ① 成立状況

「オアセ」は1996年8月に設立された。ヴァイルハイムと周囲20kmの範囲における唯一の日中活動の場である。

法人の社会精神医学サービス部門とヴァイルハイム相談所(精神障害を持つ人のための相談所)がこのクラブハウスの設立に尽力した。社会精神医学サービス部門は当時、精神障害を持つ人の日中活動の場の必要性を感じていた。地

域には良い状況で活動できているいくつかのグループ(朝食グループ、余暇グループ、ハイキンググループ)があったが、各々が活動している状況であった。これを関連付けていく方向が模索された。法人のトップや社会精神医学サービス部長はクラブハウス設立の意図を持っており、そこでどのような実践を行うかと考えた末、最終的にクラブハウスモデルに基づいたクラブハウス設立の決断が下された。

クラブハウスモデルに基づいたクラブハウスのドイツにおける先達としては、当時開設10年のミュンヘンにあるクラブハウス「シュバルベンネスト」があった。オアセの設立や当初の活動には、「シュバルベンネスト」からの支援を受けた。クラブハウスの設立メンバーの多くは上述した朝食グループ等の地域のグループから集まった。設立メンバー同士がもうすでに知り合いであったことは、クラブハウス内の潤滑な人間関係をもたらした。このことがさらにメンバー希望者をひきつけることになった。

以上のように、設立に関しては、法人の理解、設立に関する外部からの支援、メンバーの良い人間関係もあり、それほど困難なできごとではなかった。なお、クラブハウスモデルに基づいたクラブハウスに関するトレーニングは、2001年10月から11月にかけてニューヨークのファウンテンハウスで、メンバー・スタッフ各1名が行った。

### ② 現状

20人分の日中活動の場として認可されている。登録メンバーは75~80人の間である。定期的に来るメンバーが43人、不規則もしくは来ていないメンバーが25名、転居したメンバーが8名、亡くなったメンバーが6名である。定期的に来るメンバーの平均年齢は2003年5月

段階で44歳である。男女の比率は、男性39%、女性61%となっている。

スタッフは施設長（社会教育士）1名、社会教育士2名、教育者兼プロテスタントの執事（Diakon）1名から構成されている。また、長期実習生1名もいる。開設時間は月曜・火曜が10時から14時、水曜・木曜が10時から15時、金曜が11時から17時となっており、1週間当たり24時間である。

デイプログラムの作業グループは、キッチングループ（買い物、調理、パン焼き、パーティー準備）と事務グループ（書き記す仕事、統計作成、会計処理、企画運営、啓蒙活動）に分かれるが、それに加えてクラブハウス新聞の編集・発行グループが編成されるときもある。建物や家の中の維持、野菜や花を植えること、芝生や木の手入れは皆で分担して行う。作業グループは固定ではなく、誰が今日何をするのかという当日の朝の話し合いによって決まる。当日の体調で作業グループに加わずに、庭でゆっくりとしたい者にはそうすることができるようにしている。また、学校の休暇中には、子供を連れてきてても良いことにしている（メンバーの子供、孫、あるいはスタッフの子供）。これは、子供が自分の家族及び精神障害を持つ人々と自然にかかわっていけるようになっていくために大事なことであり、重要な教育でもある。

開設時間外には、ヨガ、ダンス療法、絵画のコースを提供している。講師は地域のボランティアである。余暇活動としては、ハイキング、小旅行、休暇旅行（クラブハウス全体ではなく、メンバー同士で希望者を募り自らコーディネート）が行われている。

過渡的雇用に関しては、法人内の社会精神医学サービス提供事業所で1週間に4時間の清掃

作業を1999年1月から行っている。2002年の段階ですでに5番目のメンバーが過渡的雇用を行っているという状況であり、これ以上の過渡的雇用の場合は現在のところ必要ない<sup>13)</sup>。

クラブハウスに関する地域の理解はある。たとえば、クラブハウスの行事に近隣住民が参加するし、地域の行事にメンバー・スタッフも参加する。また、地域の行政機関との連携もうまくいっている。所属する法人のクラブハウスに関する理解もある。ただし、クラブハウスプログラム基準に基づいた実践に関する評価である国際クラブハウス開発センター（ICCD）の認証を受ける予定はない。法人内にサービスの質に関する独自の評価システムがあり、それで十分であるというのが法人の考えである。

### 3. 考察

上述してきたことを踏まえ、制度的側面と実践的側面から考察していく。

#### (1) 制度的側面

ドイツは連邦制国家であり、連邦政府と州政府の役割は明確である。精神保健福祉領域あるいは障害者福祉領域の実践は各州の管轄に入るため、福祉現場の状況理解には、州及び行政区の方針を把握することが必要である。したがって、ここでは、バイエルン州及びオーバーバイエルンについてクラブハウスと関連する枠組みを明確にする。

バイエルン州における精神医療に関連する供給体制は「第2次バイエルン州精神医療計画」によって確定されている。これは法律ではないが、到達すべき内容の規定としての性格を持つ<sup>14)</sup>。州担当省はこの計画が州政府、地方自治体、社会福祉事業体の行動指針となったと評価している<sup>15)</sup>。この精神医療計画では、日中

活動の場 (Tagesstätte) 及び類似施設の利用者の重点を長期にわたって仕事に就くことができない慢性の精神疾患を抱える者に置いている。そのうえで、これら施設の果たすべき役割を次の点としている；①敷居の低い交流の場、②重度の精神疾患を抱える者が定期的に参加する長期的な作業療法的プログラムの提供、③これらを通じて、社会的リハビリテーション、再発防止、健康状態の安定・改善を図ること<sup>16)</sup>。これら様々な重点課題をもつ日中活動の場はまず大都市で設立されること、ニーズによって夕方や週末も開所されるべきこととされた<sup>17)</sup>。

バイエルン州オーバーバイエルン行政区は上述した精神医療計画を踏まえたうえで、この施設のガイドライン<sup>18)</sup>を定めている。そこでは、多くの当事者が意味ある日中の組み立てを必要としており、その対応が再入院の回避にとって重要な意味を持つことが指摘されている。日中活動の場では仕事が前面に押し出されないことが福祉的就労の場と違うところである。この施設の目的は、意味ある一日を組み立てるための作業の提供、自助への効果的支援という意味での当事者の持つ能力の安定と拡大、対人関係への慣れと広がりや社会参加に置かれている。ここにおける作業の本質的特長は自主性促進と社会参加への開始とされた。

以上述べてきたように、バイエルン州では、制度的に日中活動の場が設けられている。そして、クラブハウスはこの日中活動の場の一種とみなされている。言い換えると、日中活動の場でクラブハウスモデルに基づいた実践を行っているのがクラブハウスである。したがって、クラブハウスという社会的認知には厳しい状況がある。また、日中活動の場の数がクラブハウスの当事者へのかかわり方にも影響を与えてい

る。ミュンヘンのような大都市においては、当事者がクラブハウスモデルを導入した日中活動の場と他の日中活動の場を選ぶことができる。しかし、オアセはヴァイルハイムと周囲20kmの範囲における唯一の日中活動の場である。ゆえに、オアセとしては、日中活動を必要とする人すべてにオープンな立場を取らざるを得ない。

## (2) 実践的側面

ドイツのクラブハウスの成立状況を見ると、1986年の「シュバルベンネスト」を出発点とし、1995年「リッヒトブリック」、1996年「オアセ」と設立されてきた。リッヒトブリックとオアセは設立に際してシュバルベンネストの支援を受けたこともあり、デイプログラムの内容もシュバルベンネストから影響を受けている。設立以降現在まで、3クラブハウスともお互いに訪問しあい、必要なことは協力し合う状況にある。特に、シュバルベンネストとリッヒトブリックはミュンヘンにあり、同法人に属することからスポーツ、週末の小旅行等日常にかかわりを持ち合っている。この3クラブハウスの連携が、後述するオーストリアのクラブハウスの発展に大きく寄与している。

クラブハウスを持つ法人は2つである。両法人とも精神障害を持つ人の社会復帰にとってこのクラブハウスの活動が重要と認識している。法人の理解が続くことは重要である。かつてドイツには、ドイツ北部にクラブハウスが1つあった。そのクラブハウスは、1998年に設立され、2000年には第6回クラブハウスヨーロッパ会議の主催者にもなった<sup>19)</sup>。非常に活発に活動をしていたのだが、2004年のドイツ訪問前に調べると消息が明らかではなかった。そこで、訪問したクラブハウスで尋ねると、北ド

イツのクラブハウスは活動休止状態ということであった。理由は、その法人で経費削減の必要性が生じ、経営的観点から見た結果、クラブハウス継続への法人の理解を得ることができなかったためであった。

クラブハウスに関する理解という意味では他に、地域の理解、専門家の理解という観点がある。地域の理解は近隣ということに限ると、立地条件によって左右される。住宅街にあるリッヒトブリック、オアセは近隣住民との良い関係を構築しているが、シュバルベンネストは設立以後20年が経過しているが発展の可能性は今のところない。専門家の理解については、地域の行政機関等との連携は取れているが、彼らの理解はクラブハウスとしてというよりも、クラブハウスモデルに基づいた日中活動の場としての取り扱いである。研究者との協働は3クラブハウスともない。あるクラブハウスの施設長が参加した精神保健福祉関係の講演会の際、講師（大学研究者）にクラブハウスのことを話しても全然関心を示さなかったというように、かつて多少働きかけてみたもののうまくいかない状況があり、自分たちの日々の活動の枠にとどまっている。

専門性を追求する、あるいは専門家であることに非常に価値を置くドイツにおいて、クラブハウスモデルにおけるメンバーとスタッフのパートナーシップへの無意識的拒否、違和感が上述の大学研究者にあったのかどうかはわからない。ただ、訪問中に概して感じたことであるが、どのクラブハウスにおいても自己PRをかねた形での啓蒙活動は少ない。クラブハウス新聞以外に自分たちの活動を活字として公にしていくなことや活動の成果の学術的立証も視野に入れていくことが今後は必要と言える。

### Ⅲ. オーストリアの現状

#### 1. 調査の目的・対象・方法

##### (1) 目的

ドイツのクラブハウス訪問の際にスタッフから、ドイツよりもオーストリアのクラブハウスの活動の方が現段階では活発になっているとの指摘を受けた。そこで、オーストリアにおけるクラブハウスの現状と課題について把握することを調査の目的として訪問を行うことにした。

##### (2) 対象・方法

国際クラブハウス開発センター（ICCD）に登録されているオーストリアのクラブハウスは4ヵ所ある。すべてがオーバーオーストライヒ州にあり、同じ法人に属する。オーバーオーストライヒ州は、ドイツ南東部バイエルン州の東部側と国境を接する。これら4つのクラブハウスの中から訪問可能であったクラブハウスのスタッフとメンバーへの聞き取り調査、デイプログラムへの参加による参与観察、クラブハウス新聞等の資料分析を通して調査を行った。

訪問による聞き取り調査、プログラムへの参加を行った期間は2005年2月14日から17日である。その後、2006年2月と9月の訪問で補足を行った。なお、最初の訪問時の準備段階で、4クラブハウスのうち最初に開設したクラブハウス「プロピープル」には以下の観点について関心があることを連絡しておいた：

- －クラブハウスの成立状況
- －クラブハウスの現状
- －法的根拠

#### 2. 調査結果<sup>20)</sup>

2005年2月には、4クラブハウスのうちオーバーオーストライヒ州の州都リンツ（人口約18万

3千人<sup>21)</sup>にある「プロピープル」とリンツから25km離れたウェルズ(人口約5万6千人<sup>22)</sup>)にある「ウェルズ」の2ヵ所を訪問した。その際、「ウェルズ」では、メンバー・スタッフが流感のためほぼ閉鎖状態で、施設訪問を短時間で切り上げ、スタッフ・メンバーと施設外活動に参加した。その後、2006年2月・9月訪問は「プロピープル」に限定した。したがって、以下の調査結果については、「プロピープル」を中心として整理する。

### (1) 成立状況

クラブハウス「プロピープル」は1999年から2000年にかけての準備期間を経て、2000年4月に現在の地に移転し本格的に活動を始めた。この原点は、リンツ中央心理社会的相談所に設けられていた当事者の集いの場であった。集いの場の利用者は、当時はアルコール依存症の者、刑務所から出所してきた者、路上生活をしている者を含む様々な人々がいた。中には他者に攻撃的な人々もあり、そのことが利用者の状況にマイナスの影響を与えていることから活動の見直しの必要性が問われるようになって来た。リンツ中央心理社会的相談所の設立10周年を機に、当事者の集いの場自体の中身を有効に変更していく道が模索された。相談所及び集いの場のスタッフ、当事者は検討を重ねた結果、クラブハウスモデルに基づいたクラブハウスの設立の意図に至り、既述したドイツのクラブハウス「シュバルベンネスト」を訪問した。

その後、リンツ中央心理社会的相談所の設置・運営組織である「プロメンテ・オーバーオストライヒ」法人本部の決裁、クラブハウス「シュバルベンネスト」からの支援を得ながら、1999年9月にクラブハウス「プロピープル」はリンツ中央心理社会的相談所内に設けられた。しか

し、スペースの点から、2000年4月には現在地に移転し、クラブハウスとして独立した施設となった。なお現在のオーバーオストライヒ州の障害者施策においては、クラブハウスをクラブハウスとして位置づけている。

1999年の発足時の登録メンバーは28名、その多くは上述した集いの場からの継続者であった。当初からメンバー・スタッフが共に新メンバーについて決定していくクラブハウスモデルに基づいた決定方式が採用されており、他者への攻撃性のため受け入れを断ったケースもあった。その後登録メンバーの数は2000年47名、2001年65名、2002年100名、2003年138名、2004年147名と増加していった。この中には、3ヶ月間来所していないメンバーも含まれている。ただし、そのような一定期間以上来所しないメンバーでも症状の安定等により再度来所し始める場合もある。このようなメンバー数の伸びの背景には、クラブハウスモデルの考え方と精神保健福祉サービスユーザーの動きやエンパワメントの考え方が合致していたということがあった。しかし、開設当初には、クラブハウスモデルに関する理解をメンバーに浸透させる難しさに直面することがあった。それは特にメンバーとスタッフによるクラブハウスの協働運営やメンバーの自己決定の促進という点についてであった

「プロメンテ・オーバーオストライヒ」法人本部は、「プロピープル」に続き、2001年にヴォクラブルック、2002年にスタイア、2003年にウェルズの各地に地名と同名のクラブハウスを設立した。現在オーストリアに存在するクラブハウスはすべてオーバーオストライヒ州にあり、同じ法人に属する。なおこの法人自体は精神障害者社会復帰施設約150、スタッフ1200人

以上を抱える巨大な組織である<sup>23)</sup>。

## (2) 現状

市内中心のショッピング街にある建物の1・2階を利用している。市内メインストリートのすぐそばにあり、交通の便は非常に良い。活動の場として利用している場所は、カウンター式になっていて大きなリビングに面する台所、広いテラス、事務グループ活動に活用できる3つの部屋があり、空間にも恵まれている。

2006年現在の登録メンバーは約190名で、その内3ヶ月以内に来所した者は100~117人の間を推移している。1日平均28人が来所している。クラブハウスに関心を持っている者への体験日を月2回(1回2時間)設けている。メンバーになるためには次の手続きを踏むことが必要である；メンバーになりたいと思った者は待機者リストに登録し、空きができて連絡があったら情報提供の面談があり、その後1ヶ月以内に20時間のオリエンテーション期間を終え、施設長及びメンバーとの受け入れ面接を行う<sup>24)</sup>。新規登録メンバー待機者リストには常時20~30人が載っている。しかし、スタッフの配置時間数から現在新しいメンバーを受け入れられる状況ではない。

スタッフは筆者の2005年2月訪問時には5名(ただし1名病休)であったが、2006年9月の段階では4名(1名週35時間、2名週32時間、1名週21時間の勤務時間)になっている。実習生の受け入れ(3ヶ月)も行っている。メンバーとスタッフのトレーニングに関しては設立当初から法人の理解もあり、国際クラブハウス開発センター(ICCD)に認可されたトレーニングキャンプのクラブハウスで次のように、3週間トレーニングコースを終えてきた；2000年5月「ファウンテンハウス・マルモ」(スウェーデ

ン)でスタッフ2名、2003年2月から3月「モザイク」(イギリス・ロンドン)でメンバー・スタッフ各1名、2005年には「ファウンテンハウス・マルモ」(スウェーデン)でメンバー・スタッフ各1名。スタッフの役割はクラブハウス内及び過渡的雇用に関することに限られている。それは、多くのメンバーには相談機関に担当者がいることが多く、相談に関してはそちらを利用するというように自分のニーズに応じて多種のサービスを活用しているからである。2006年に入り、設立当初からのスタッフの異動、5年勤務のスタッフの退職というように2名のスタッフがクラブハウスから去り、現在のスタッフ4名の内2名がここ1年以内に着任した。したがって、ここ1年以内採用のスタッフはクラブハウスに関するトレーニングをまだ受けていないが、この法人には採用2年以内に受けなければならない講習プログラムがあり、まずはそこから始めることになる。

開設時間は月・水・木・金曜が8時30分から15時、火曜が8時30分から16時30分、日曜が12時から18時の計40時間である。これは2006年4月からの状況で、それまでの開設時間は月・火・木曜が8時30分から16時、水曜が8時30分から18時、金曜が8時30分から14時30分、日曜・祝日が12時から18時であった。2006年4月からの開設時間短縮は、法人に下りてくる州からの補助金削減により、法人内の各施設の職員労働時間総数の短縮が図られたためである。この先もさらなる職員労働時間総数の削減が求められている。

2006年4月までは、月曜から金曜までのデイプログラムがキッチングループ(買い物、飲み物・果物・菓子を販売する軽食バーの運営、昼食準備、配膳、片付け)と事務グループ(受

付、郵便物・Eメールの処理、事務処理、統計作成、クラブハウス新聞作成等) という2つの作業グループに分かれたうえで、その担当活動にメンバー・スタッフとも専心する環境になっていた。しかし、上述したスタッフの労働時間総数の削減に伴い、各作業グループにスタッフが十分な時間を割けない自体が生じることが予想された。そこで2006年4月からは金曜を作業に専心する日からはずし、自由に時間を過ごせる日とした。ただ、金曜によっては、クラブハウス内の活動の難しい点を振り返る時間や外部講師からの講義(例：薬と副作用)を受ける時間を設けることもある。また、外部講師の状況によるが、作業に専心する日の内で週1回英会話の時間を設けるように努めている。

余暇活動に関しては、メンバー・スタッフの話し合いの中で案を出し合い、夕食を食べに行ったり、映画に行ったりすることを平日18時以降に、日帰り旅行・スポーツを日曜に実施している。夏の休暇旅行も実施されている。2006年はメンバー10名、スタッフ2名参加で、クロアチアで休暇を過ごした。費用を最小限度にするためにメンバー・スタッフで知恵を寄せ合った計画をたて、移動にはスタッフ運転で法人のマイクロバスを使った。

過渡的雇用に関しては、2001年からカトリック系病院にあるカフェテリアで、食器の片付けや食器洗浄等に関する仕事に4人が従事していた。メンバー2名が週7時間半、残りメンバー2名が3時間半働き、1時間当たりの最低賃金が雇用先からクラブハウスを通して支払われる。国際クラブハウス開発センターでまとめられているクラブハウスのガイドラインでは、雇用先から本人に直接賃金が支払われることの重要性が指摘されている。しかし、このクラブ

ハウスでは違うやり方をしている。これは年金が減額されないようにとのクラブハウス側の配慮という。過渡的雇用の期間は一般的に6ヶ月であるが、次に関心を示すメンバーがいない場合は、期間延長または再度雇用されるメンバーもいる。新しいメンバーのトレーニングや病気で欠勤のメンバーの補充も主としてメンバーで行う。今まで、述べてきたカフェテリアでの過渡的雇用の場合は、カフェテリアの従業員とクラブハウスメンバーとの人間関係がうまくいかず、メンバーへ大きなストレスがかかり始めたので、クラブハウス側から中止した。その後、同じ病院が新しく作った事務所で同様の手伝いを行っていたが、2006年6月いっぱいでも終了した。2006年10月からはある企業で事務手伝いの職を確保する予定であるが、それがうまくいかない場合は、医師会と交渉する予定である。過渡的雇用先の開拓には、今まで比較的理解を得ることができている。

啓蒙活動については、クラブハウス新聞の関係団体・機関への送付を行っている。また、情報提供を1日かけて行う行事(Informations-tag)では、連携しているドイツのクラブハウス、同法人のクラブハウスと共にクラブハウスの情報提供の活動を行っている。昨年の行事には、ドイツ以外のヨーロッパのクラブハウスにも参加を呼びかけていた。さらに、最近の取り組みとしては、「プロメンテ・オーバーオストライヒ」法人本部に依頼のあった専門大学の講義の一部をメンバー・スタッフが担当したことやリンツにある州立精神科病院でクラブハウスについてプレゼンテーションしたことがある<sup>25)</sup>。

### 3. 考察

#### (1) 制度的側面

オーストリアにおいてもドイツ同様、連邦制がとられている。精神保健福祉の領域については州が権限を持っている。したがって、ここでは州レベルの状況に着目していく。

州の障害者施策の中で心理社会的支援を必要とする人々への給付項目には次のものがある；①心理社会的相談所・依存症相談・アルコール相談、②危機支援、③住居、④クラブハウス・余暇・コミュニケーション、⑤ホームステイ、⑥ボランティア、⑦デイサービス、⑧職業支援<sup>26)</sup>。④に見て取れるように、クラブハウスは余暇・コミュニケーションと同様の範疇に位置づけられている。この範疇の給付目的・内容等については、ガイドラインとして州当局（社会局）が編集した「給付カタログと質の基準：余暇」がある。この作成過程には、プロメンテ・オーバーオーストライヒともう1つ心理社会的支援を必要とする人々へのサービス提供をしている法人が参加した。クラブハウスに関しては、各クラブハウスの活動指針として、「国際クラブハウスプログラム基準」があるのでそれを尊重し、このガイドラインに盛り込むということになった。つまり、「国際クラブハウスプログラム基準」を満たそうと各クラブハウスが努力することが、国内（ここでは州にあたる）基準を満たすことになったと言える。

州の障害者施策の中にクラブハウスが位置づけられていることにより、法人に下りてくる補助金の対象にもなっている。今まで、オーバーオーストライヒ州は社会福祉関連についてはオーストリアの中で最も力を入れている州であった。財政の削減を図るにしても、社会福祉関係にはなるべく手をつけずにきた。しかし、そ

れが維持できない状況になってきた。オーバーオーストライヒ州の精神障害者社会復帰施設の種別のすべてを複数持ち、州政府と強いパイプを持ってきたこの法人も例外ではなかった。他の種別の施設も含めて合算で法人に下りてきていた補助金総額の削減が行われたことにより、すべての施設にこの影響は出てきている。クラブハウスも人件費のカットにそれが現れてきている。

以上の経費削減の波は今後も続く。したがって、これから先クラブハウス自体も法人内で行われている利用者の満足度調査だけではなく、それに加えてさらに自分たちの有効性を証明できる資料（外部及び内部評価）を意識する必要性が出てきている。

#### (2) 実践的側面

連携という観点から、クラブハウス間、他の専門機関・施設、地域についての考察を以下行う。

オーストリアのクラブハウスの成立状況を見ると、2000年の「プロピープル」（1999年から一部活動開始）を出発点とし、2001年に「ヴォクラブルック」、2002年に「スタイア」、2003年に「ウェルズ」と設立されてきた。プロピープルの設立に関しては、ドイツのクラブハウス、特にシュバルベンネストからの支援があった。プロピープルの設立当初からの施設長はクラブハウス設立を検討するために初めてシュバルベンネストを訪ねた時に、「このように居心地よく、くつろげる場を作りたい」と思ったという。プロピープルはオーストリア最初のクラブハウスとして、オーストリア内の他のクラブハウス設立を支援した。各クラブハウスのデイプログラムの内容はシュバルベンネストから影響を受けている。4クラブハウスとも同法人とい

うこともあり、相互訪問と相互支援を行うだけでなく、情報交換・意見調整のための会合も行っている。また、ドイツのクラブハウスとも良い協力関係を保っている。

他の機関・施設との関係において、クラブハウスの所属法人「プロメンテ・オーバーオストライヒ」の存在が大きい。この法人は過去40年以上に渡って、精神障害を持つ人の社会復帰に携わってきた。宗派や政党とは結びついていない法人である。当初リンツにある州立精神科病院の患者の社会復帰への対応から始まり、時代の要請に応じて活動の幅を広げてきた。現在では、オーバーオストライヒ州全域に渡った活動をしており、1年間で23,000人以上の利用者への関わりを持っている<sup>27)</sup>。法人が持つ施設数は150以上であり、スタッフは1200人以上いる。当初から州政府とは良い関係にあった。また、法人トップには代々、リンツにある州立精神科病院の医師が就いており、彼らは社会貢献に努めてきた。その結果、法人トップに対してだけではなく、法人自体に対しても社会的認知度は大きいものがある。法人外との関係においては、州立精神科病院との強い関係を保っている。また、法人内部においては、州の精神障害者施策に関するすべての施設が複数存在する。このような法人組織の一部にクラブハウスはあるが、法人内最小で最新の分野でもある。対外的な法人の社会的認知度に比すると、あるいは法人内における職員の理解度を考えるとクラブハウスの認知度は低いといわざるを得ない。

各クラブハウスのみならず、クラブハウスの連帯において、当事者、専門家、地域、法人内の様々なレベルでクラブハウスの認知度を高める啓蒙活動を試みてきてはいる。しかし、この点に関しては今後より一層、メンバー・スタッ

フ共に活動を推進していくことが重要である。啓蒙活動の推進が、当事者・家族、専門家、地域の理解を深め、連携を促進することにつながる。

#### IV. ドイツとオーストリアの比較

クラブハウスの制度的位置づけとクラブハウスの連携に焦点を当てて検討する。

クラブハウスの制度的位置づけであるが、ドイツの場合は日中活動の場として制度的には位置づけられている。言い換えると、日中活動の場でクラブハウスモデルに基づく実践を展開しているのがクラブハウスである。それに対してオーストリアでは、クラブハウスはクラブハウスとして制度的には存在しており、「国際クラブハウスプログラム基準」も尊重されている。ただし、範疇としては「クラブハウス・余暇・コミュニケーション」というように類型化されている。州はホームページで、クラブハウスについての説明を次のようにしている；①クラブハウスは余暇活動施設、コミュニケーション施設（交流の場の意味）の特別形態である、②クラブハウスの運営・維持のための仕事はメンバー・スタッフが共に行い、必要な決定も共に行う、③クラブハウスにおいて共に行う仕事は自主的なものであり、無報酬である<sup>28)</sup>。ここにも述べられている余暇活動施設というイメージからの脱却がオーストリアのクラブハウスの課題である。この課題解決のためには、メンバー希望者へのオリエンテーションに限らず、法人内から地域まで幅広い対象を意識した啓蒙活動に一層力を入れざるを得ない。クラブハウスの連携はこの啓蒙活動にも見られる。オーストリアのクラブハウス間のみならず、ドイツのクラ

ブハウスの協働により啓蒙活動を展開している  
のである。

ドイツとオーストリアのクラブハウスは自らの  
連携グループを「ドイツ語圏クラブハウス連  
合 (Deutschsprachige Clubhaus-Koalition)」  
と名付けている。「共により多くのことを達成  
する」というスローガンのもと、2001年11月に  
設立された。目的は次のように設定されている；  
①クラブハウスの考え方をドイツ語圏に広げる  
こと、②自らの活動を互いの訪問や参与観察を  
通して振り返り、改善すること、③翻訳を分担  
すること、④クラブハウスメンバーの再就職を  
可能にすること、⑤連合することにより、世界  
に広がるクラブハウス共同体における自らの要  
望への重みをさらに得ること<sup>29)</sup>。翻訳作業は、  
国際クラブハウス開発センター (ICCD) や他  
の言語圏との連絡・交流が英語となるため、分  
担翻訳したものを集約担当クラブハウスで整理  
し、再度各クラブハウスにメール発送している。

日本では、「日本クラブハウス推進会議」と「関  
西クラブハウス友の会」の2つの支援組織があ  
る。また、各クラブハウス間で交流を行っても  
いる。これらを合わせると上述した「ドイツ語  
圏クラブハウス連合」の活動と似た部分もある。  
ただ、ドイツ語圏の活動と日本の活動を同じよ  
うに論じられるかは、文化的違いも含めた検証  
が必要である。

## V. おわりに

筆者が訪問した各クラブハウスのメンバー・  
スタッフから、ドイツ語圏クラブハウス連合や  
ドイツ語圏の他のクラブハウスの話を聞いたと  
きに、彼らの語る状況から「連帯」という言葉  
を思い浮かべた。ヨーロッパでは連帯や共同と

いう言葉がよく使われる。それが彼らの文化、  
生活の中に根付いている。

訪問の際に、筆者が日本でよく使われる連携・  
協働という言葉を投稿げかけたときに、ある施設  
長が「他機関・施設と連絡を取り合ったりする  
協力関係はある。ただそこに連携・協働とい  
う言葉は使いたくない。その言葉は自分の感覚  
では、ドイツ語圏クラブハウス連合内での関係  
を意味する。」と語った。

ドイツ語圏のクラブハウスのメンバー・ス  
タッフは、自らのクラブハウス、自国のクラブ  
ハウス、ドイツ語圏クラブハウス、ヨーロッ  
パのクラブハウス、世界に広がるクラブハウス  
といった各々の段階における共同体を意識して  
いた。この段階を追った広がり、あるいはそれ  
に伴う所属感や連帯意識が彼らの実践や誇り  
を支えていることを強く感じた。

## 注

- 1) ICCD:2005 Clubhouse List (<http://www.iccd.org/clubhouseDirectory.aspx> 2006年 9月11日 検索)
- 2) 小田美季：日本におけるクラブハウスモデルの現状と課題 (1)、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第12巻第1号、2003、p.57
- 3) 宗像利幸：クラブハウスモデル、日本精神保健福祉士協会編『[第3版]これからの精神保健福祉』へるす出版、2003、p.204
- 4) ICCD: 前掲URL 1
- 5) 小田美季：日本におけるクラブハウスモデルの現状と課題 (2)、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第12巻第2号、2004、pp.28-35
- 6) ドイツにおける民間社会福祉団体とは、「SPD系の労働福祉団、プロテスタント系のディアコニア事業団、障害者自助団体等の無党派系のドイツ・パリテ

- ティッシュ福祉事業団、カトリック系のドイツ・カリタス福祉連盟、ドイツ赤十字社、ユダヤ人中央福祉機関の6団体]を示す(岡崎仁史:地域福祉、仲村優一・一番ヶ瀬康子編集委員会代表『世界の社会福祉 ドイツ・オランダ』、旬報社、2000、p.196)。
- 7) Sozialpsychiatrisches Zentrum (SPZ) "Haus an der Teutoburger Straße" der PARITÄTISCHEN in Bayern e.V.のリーフレットを参照した。
- 8) 社会教育士はドイツの社会福祉専門職の1つで、ソーシャルワーカーと比較すると、実践において教育的観点を含んだ専門的援助を行う。社会教育士とソーシャルワーカーの養成については、以下の論文参照；小田 美季：ドイツにおける社会福祉専門職ーソーシャルワーカーと社会教育士の養成教育ー、同志社大学社会福祉学会編『同志社社会福祉学』第11号、1997、pp.71~80
- 9) クラブハウス「リヒトブリック」の歴史については、訪問時のメンバーとスタッフの説明及び配布資料 Berliner,P. : Geschichte des Clubhaus Lichtblick, 2004による。
- 10) Stadt Weilheim i.OB : Einwohnerentwicklung (<http://www.weilheim.de> 2006年8月16日検索)
- 11) クラブハウス「オアセ」の内容については、訪問時のメンバーとスタッフの説明及び配布資料による。
- 12) Herzogsägmühle : Selbstverständnis&Unternehmensziele (<http://www.herzogsaegmuehle.de> 2006年8月16日検索)
- 13) Clubhaus Oase : Clubhausbeschreibung,Weilheim, 2004, S.2; Clubhaus Oase : Standortbestimmung von Clubhaus Oase und ambulante psychiatrische Versorgung, Weilheim,2002, S.2
- 14) Huber, H.: Rechtsgrundlage für tagesstrukturierende Einrichtungen für Menschen mit Psychiatrieerfahrung, München, 2004, S.2(2004年訪問時配布資料)
- 15) Bayerisches Staatsministerium für Arbeit und Sozialordnung, Familie und Frauen: Psychische Kranke und Behinderte (<http://www.stmas.bayern.de> 2006年8月9日検索)
- 16) Bayerisches Staatsministerium für Arbeit und Sozialordnung, Familie und Frauen: Zweiter Bayerischer Landesplan zur Versorgung psychisch Kranker und psychisch Behinderter, München, 1990, S.37
- 17) Bayerisches Staatsministerium für Arbeit und Sozialordnung, Familie und Frauen: 前掲書16, S.38
- 18) Bezirk Oberbayern: Richtlinien des Bezirks Oberbayern für Tagesstätten für psychisch Behinderte,2000
- 19) Die Brücke:Clubhouse ([http://www.bruecke.org/a\\_b/ch.html](http://www.bruecke.org/a_b/ch.html) 2003年7月2日検索)
- 20) クラブハウス「プロピープル」の内容については、訪問時のメンバーとスタッフの説明及び以下の資料を参照した。Psychosoziale Beratungsstelle Linz-Mitte : 10Jahre Psychosoziale Beratungsstelle Linz Mitte, Linz, 2000, S.5 ; Clubhaus pro people : Übersetzung des ICCD Berichts der Zertifizierung 2003, Linz, 2003, S.4
- 21) Land Oberösterreich (Hrsg.): Leben in Oberösterreich, Linz, 2005, S.2
- 22) Land Oberösterreich (Hrsg.): 前掲書21. S.2
- 23) Pro mente Oberösterreich : Clubhaus "pro people" (<http://pmooe.at> 2006年9月1日検索)
- 24) Pro mente Oberösterreich: 前掲URL23
- 25) Clubhaus pro people : Clubhauszeitung .->>pro people<<Juli + August 2006, Linz, 2006, S.27
- 26) Land Oberösterreich:Leistungen für Men-

schen mit psychosozialem Unterstützungsbedarf (<http://land-oberoesterreich.gv.at> 2006年9月1日検索)

27) Pro mente Oberösterreich : 前掲URL23

28) Land Oberösterreich:Clubhäuser, Freizeit-Kommunikation, (<http://land-oberoesterreich.gv.at> 2006年8月6日検索)

29) Deutschsprachige Clubhaus-Koalitionのリーフレット(2002年発行?)